

関東学院大学 横須賀学院高等学校 共同企画

防災講演会（11月22日、横須賀学院高等学校）

東日本大震災で発生した液状化現象と 将来の地震災害で想定される、神奈川・三浦半島での被害

関東学院大学（本部：神奈川県横浜市金沢区、学長：規矩大義）と横須賀学院高等学校（神奈川県横須賀市、校長：藤野利夫）は、今後想定される地震災害に備えるため「東日本大震災で発生した液状化現象と、将来の地震災害で想定される神奈川・三浦半島での被害」をテーマに災害への心構えを学ぶ講演会を、11月22日（火）に横須賀学院高等学校で開催します。今回の講演会は、どなたでも聴講可能です。

東日本大震災では、東北地方沿岸部の甚大な津波被害に加え、千葉県や横浜市南部など震源から遠く離れた東京湾沿岸地域でも液状化現象が確認されています。液状化現象にともない、水道管の浮き上がりなどが発生し、都市インフラの復旧まで多大な時間を要しました。また、関東学院大学や横須賀学院高等学校が立地する神奈川・三浦半島では、将来的に発生が予想される三浦半島活断層群や南海トラフを震源にした地震による被害も予測されています。

今回は、地盤防災工学が専門で液状化現象とその対策について研究を進める、関東学院大学学長の規矩大義理工学部教授が、東日本大震災で発生した液状化現象と今後予測される三浦半島での地震被害について解説。講演を通じて、事前の備えの重要性や防災に対する正しい考え方を学んでいきます。

なお、この講演会は関東学院大学と横須賀学院高等学校との高大連携事業の一環として実施するものです。

講演会概要

日時：11月22日（火）17:00～18:15
場所：横須賀学院高等学校 小チャペル
（神奈川県横須賀市稲岡町82）
京急横須賀中央駅から徒歩約10分
参加方法：予約不要。直接会場までお越しください。
参加対象：防災等に関心をお持ちの一般の方
（参加希望の生徒および保護者も聴講します）
後援：横須賀市教育委員会



液状化現象によるマンホールの浮き上がり被害

講師略歴

規矩大義（きく・ひろよし）
関東学院大学 学長、理工学部土木学系教授、博士（工学）
1963年兵庫県生まれ。1993年九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了後、横浜国立大学に助手として勤務。1995年からは佐藤工業株式会社中央技術研究所に研究員として勤務。佐藤工業在職中には、トルコ・イスタンブール工科大学（1999年～2000年）および国土交通省国土技術政策総合研究所（2001年～2002年）への派遣勤務を経験。2002年に関東学院大学へ着任。理工学部長などを経て、2013年から学長を務める。専門分野は地盤工学、地盤防災工学。

取材等に関わるお問合せ先

関東学院大学 広報課 鈴木敦
神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1 TEL 045-786-7049（直通） kouhou@kanto-gakuin.ac.jp
横須賀学院高等学校 科学教育センター 飯淵興喜
神奈川県横須賀市稲岡町82 TEL 046-822-3218（代表）

関東学院大学・・・1884年創立の横浜バプテスト神学校が源流。1949年の学制改革にともない、新制大学として設置。現在では、国際文化、社会、法、経済、理工、建築・環境、人間共生、教育、栄養、看護の10学部を設置する総合大学。学長 規矩大義 本部：神奈川県横浜市金沢区

横須賀学院高等学校・・・青山学院第二高等学校を前身として、教会関係者の尽力により1950年に開校。2009年には、青山学院との間で「教育提携協定」を締結。全日制普通科 校長 藤野利夫 所在地：神奈川県横須賀市